



証券コード:2759

Small  
Business  
Relationship

## 株主通信

2010年3月期(第13期)のご報告  
(2009年4月1日～2010年3月31日)

日本のスモールビジネスを活性化するエンジンとなる

## 社長メッセージ



株式会社SBR  
代表取締役社長

**高梨 宏史**

年 月	経 歴
1986年4月	株式会社オートラマ(現:フォード・ジャパン・リミテッド)入社
1996年11月	株式会社ITC(現:株式会社エービーシー・マート)入社
1997年8月	株式会社ユナイテッドアローズ 入社
2001年6月	同社 取締役
2006年8月	株式会社バイテック・グローバル・ジャパン 入社
2007年2月	同社 取締役(現任=非常勤取締役)
2007年12月	当社 入社 経営企画室長
2008年6月	当社 取締役 経営管理管掌
2009年1月	当社 常務取締役
2009年7月	当社 代表取締役社長(現任)

### ■ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素のご支援、ご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長の高梨宏史でございます。平成21年7月に代表取締役に就任し、株主の皆様より当社グループの経営を預らせて頂いております。

当社グループを取り巻く事業環境といたしましては、不透明な経済環境が続くなか、当社のターゲット顧客であります小企業におきまして、厳しい景況感の悪化が続いております。事業の柱であるITパッケージの受注量が減少する等、当社業績にも影響が出ております。また、昨年4月に金融支援サービスにおきまして、不正行為及び不適切な会計処理が発覚し、当社に対する信用失墜を招くとともに、損失が拡大する事態となりました。

このような状況下におきまして、以前の経営陣に代わり代表取締役に就任いたしました私の使命は、事業構造を改革し利益体質へ転換することにより業績の回復を図ることです。また内部管理体制を強固なものにすべく、コンプライアンス経営の実現、コーポレート・ガバナンスの強化に取り組むことで、健全な企業運営を推進していく

ことであります。このような取組みが、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に繋がるものと考えております。この実現に向けて、新たに選任して頂きました経営陣と共に、全力で取り組む所存でございます。

株主の皆様におかれましては、何卒ご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

### ■内部管理体制の改善状況について

事業概況の説明に先立ちまして、金融支援サービスにおける不正行為等により、株主の皆様をはじめとする多くのステークホルダーの皆様にご心配とご迷惑をお掛けいたしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

当該不正行為等は、平成21年4月に平成21年3月期監査の実施過程において発覚いたしました。金融支援サービスの営業立替金事業におきまして、担当していた当時の従業員により、取引先残高の不正な付替え、事実と異なる回収状況の報告、架空売上の計上とそれに伴う債権残高の操作、及び契約書と異なる手数料の計上による過大売上の計上といった不正行為等が、平成20年3月期及び平成21年3月期の2年間に亘り行われていたという内容でございます。

当該不正行為等に端を発し、現時点におきまして当社

株式は株式会社大阪証券取引所より特設注意市場銘柄に指定されております。このような状況を受けて当社では、市場からの信頼回復に向けて、二度とこのような不正行為等が発生しないように再発防止策を立案し、改善措置の実施に努めると共に、内部管理体制の強化に向けて全社一丸となって取り組んでおります。

平成22年5月6日付『株式会社大阪証券取引所への「改善状況報告書」提出のお知らせ』にて公表いたしましたように、当社では再発防止策として、管理部門の強化、基幹業務システムの導入、ビジネスルールの再構築、コンプライアンスの強化、経営監視委員会の設置、内部監査機能の強化、内部通報制度の周知徹底など、様々な施策に取り組んでおり、この改善措置が実を結び、一定の成果があがってきているものと捉えております。

今後におきましても、内部管理体制を強化し、コンプライアンス経営を実現させていくためには、継続して再発防止策の改善措置を実施していく必要があると認識しており、新体制の下、このような不正行為等を今後二度と起さないように、内部統制システムを再構築し、コーポレート・ガバナンスの強化を図ってまいります。

### ■新たな経営体制での再出発にあたり

当社グループは、平成11年6月にOA機器の販売を目的として設立された株式会社テレウェイヴをルーツとし、その後、通信機器・ネットワーク工事及び保守事業、情報通信機器・通信回線販売事業、ITソリューション事業などを立ち上げ、業容を拡大してまいりました。しかしながら、事業の柱であるITパッケージの売上が平成18年半ばから停滞し始め、平成19年3月期より4期連続で最終赤字を計上するに至っております。

これまでの当社グループの経営方針は、M&Aと分社化、経営支援サービスの拡充等による更なる成長と事業拡大の戦略を採っておりましたが、業績回復を果たすことは出来ませんでした。

このような中、事業拡大路線から利益主義へとその方針を大きくシフトし、利益体質への事業構造の転換を図ってまいりました。その足掛かりとして、平成22年3月期におきまして事業の柱であるITパッケージに経営リソースを集中させる「本業回帰」をテーマに掲げ、経営支援サービスやグループ子会社の「選択と集中」を実施すると共に、販売管理費の徹底的な見直しを行いました。その結果、損益分岐点売上高は劇的に下がり、利益体質への転換に向けた土台固めまでは形にすることができたものと認識しております。

当社は、第13回定時株主総会にて経営陣を大幅に刷新し、新生SBRグループとして改めてスタートラインに立つことができました。株主の皆様におかれましては、変わらぬご指導とご支援を賜りましたことを心から感謝いたします。しかしながら、株主の皆様のご期待に沿うには、多くの対処すべき課題が残されており、これを一つ一つ着実に乗り越えていかなければならないことも事実であります。業績の安定化を図ると共に、健全な企業運営を構築していくことで、当社グループの真のターンアラウンドを実現できるように、新たな経営陣を筆頭に社員一丸となって踏み出していく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

2010年6月

## SBRグループが目指すもの

### ■SBRグループ・ビジョン

新生SBRグループが全社一丸となって新たなスタートを切るにあたり、私たちの目指すべき姿を再認識するために、まずはグループ・ビジョンを明確にすることいたしました。

当社グループは、「日本のスモールビジネスを活性化するエンジンとなる」ことをグループ共通のビジョンとして掲げ、従業員20名以下の小企業のパートナーとして、価値あるITソリューションを提供し続けてまいります。また、株主、顧客をはじめとする全てのステークホルダーのご期待に応じていくために、健全な事業活動の運営を通じて、継続的な企業価値の増大を図ることを目標として事業活動を展開してまいります。

当社グループが目標とする企業像といたしましては「高付加価値・クリエイティブ・セールスカンパニー」を掲げております。当社グループにおける高付加価値とは、「高い優位性をもって、高い利益率を実現し、顧客に高品質のサービス及びサポートと高い満足を提供する」という意味で使用しております。主力商材でありますITパッケージに代表されるように、当社は本来「顧客（消費者）起点の商品開発力」という強みがあるにもかかわらず、近年ではその強みを発揮することができず、営業力に頼った事業展開を行ってまいりました。今後におきましては、高付加価値商品及びサービスを「創って（企画）・作って（製造・制作）・売る（営業）会社」＝「高付加価値・クリエイティブ・セールスカンパニー」を目指して、その第一歩を踏み出してまいります。

### SBRグループ・ビジョン

『日本のスモールビジネスを活性化するエンジンとなる』

### SBRグループが目指すもの

創って、作って、売る会社

『高付加価値・クリエイティブ・セールスカンパニー』

※SBRグループにおける高付加価値とは、「高い優位性をもって、高い利益率を実現し、顧客に高品質のサービス及びサポートと高い満足を提供する」という意味で使用しております。

## 今後の事業ドメインについて

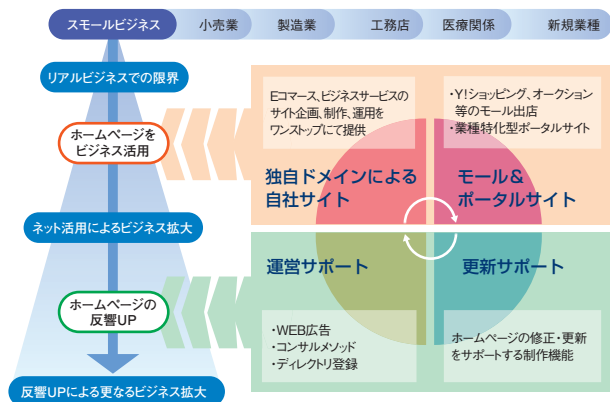
### ■価値あるITソリューションの提供

当社は平成22年3月期の経営方針として、事業の柱であるITパッケージに経営リソースを集中させることによる「本業回帰」をテーマに掲げ、ITパッケージと関連性の低い周辺事業の縮小、グループの再編等に取り組んでまいりました。

その結果、不採算事業でありました開業支援サービス、金融支援サービス、人材支援サービス等のITパッケージと関連性の低いサービスの撤退をいたしました。また、平成21年3月末時点において10社あったグループ子会社は、平成22年3月末時点においては1社とグループ規模の適正化が進んでおります。

このように事業範囲、グループ規模ともに、大幅に集約いたしましたので、改めて当社グループの事業につきまして、ご説明申し上げます。

### ■SBRグループの事業イメージ



### ●ITパッケージ

ITパッケージでは、小企業の売上向上、経費削減を目的とし、ホームページの制作・運営、ホームページ運営のために必要なハードウェアの納入やその後のサポートまでをパッケージとして、リース契約もしくはレンタル契約で提供しております。また、必要に応じてホームページのアクセスアップツール、顧客管理ツール、工程管理ツールなど業種ごとに特化したシステムを提供することで、幅広い業種の顧客へ商品の提供を行っております。更にITパッケージを導入頂いている小企業に対し、ホームページの更新・修正や、訪問によるサポートサービス等を行っております。

### ●IT支援

IT支援では、ヤフー株式会社（以下、「ヤフー」という）が運営するYahoo!JAPAN内の「Yahoo!ショッピング」や「Yahoo!グルメ」をはじめとする各種サービスへの登録代行やアクセス数アップに繋げるコンサルティングも併せて行っております。ヤフーとは、日々の営業活動からの顧客ニーズを活用し、新商材の企画・開発活動も共同で行い、インターネットを利用した売上向上の支援をしております。その他、顧客のニーズに合わせたPPC広告<sup>\*1</sup>やITに関するサービスだけにとどまらず、フリーペーパーなどその他のメディアを活用した商材・サービスも提供しております。

<sup>\*1</sup> Pay Per Click広告の略で、クリックされた回数に対して広告料が発生するクリック課金の広告を指します。

## 13期 決算トピックス

### ■平成22年3月期 連結業績

平成22年3月期の当社グループの業績は、売上高が98億40百万円、営業損失▲4億47百万円、当期純損失▲9億58百万円と、前期に対しまして減収となり、赤字幅は大幅に縮小いたしました。

売上面につきましては、ITパッケージにおいて、景況感の悪化等の影響に伴い受注が伸び悩んだこと、ITパッケージと関連性の低い周辺事業の縮小を積極的に推進したこと、政策的なグループ再編の推進による連結子会社の売却に伴い、売却対象となった連結子会社分の売上が減少したことなどにより、前期と比較いたしまして大幅な減収となりました。

一方、コスト面におきましては、組織規模の適正化による人件費の減少、グループ再編に伴って売却された連結子会社分の経費の減少、本社オフィスや支店の移転による地代家賃の減少、全社的なローコスト・オペレー

ションの実施によるコスト抑制等により、販売管理費の大幅な圧縮を実現いたしました。

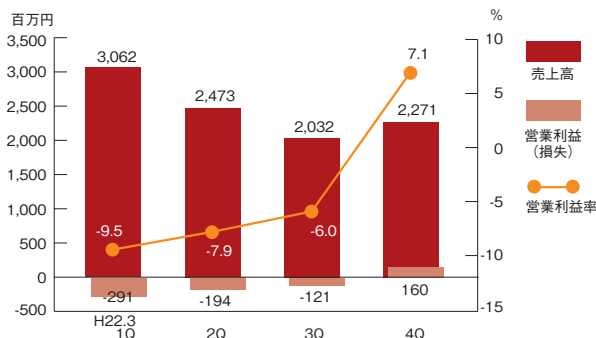
これにより、差引では営業利益以下は依然として欠損の状況が継続しておりますが、前年と比較いたしまして赤字幅は大幅に縮小いたしました。

### ■連結業績の四半期推移

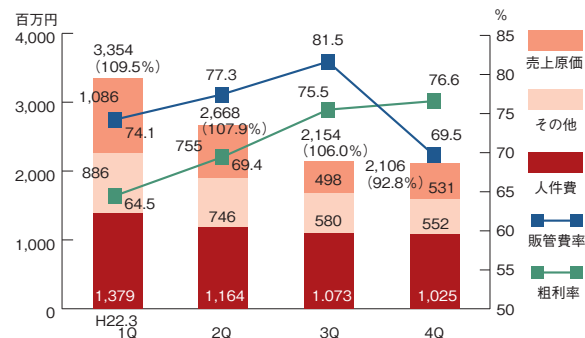
グループ連結売上高の四半期推移につきましては、規模の縮小が継続しておりましたが、第4四半期の売上高は、22億71百万円となり、第3四半期と比較いたしまして11.7%増加いたしました。これは事業の柱であるITパッケージにおきまして、緩やかながら受注の回復が見られたこと等によります。

利益面につきましては、四半期推移で見ますと、販売管理費の抑制に向けた様々な取組みが奏功し、第4四半期におきましては営業利益が黒字転換するまでに至っております。

### ■業績の推移 (四半期)



### ■営業費用の推移 (四半期)



## ■財務状況

財務状況につきましては、総資産、純資産共に前期と比較いたしまして大幅に減少しておりますが、同様に負債につきましても大幅に減少しており、特に有利子負債は5億円のみとなり、財務の健全化が進んでおります。また、安全性の指標である流動比率に関しても150.4%と前期と比較いたしまして大幅に改善されております。

なお、当社第13回定時株主総会にてご承認頂きました第三者割当増資の実施に伴い、有利子負債はゼロとなり、流動比率も200%を超えることから、財務の健全性がより担保されるものと認識しております。

## ■キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローの状況につきましては、「営業キャッシュ・フローがマイナスの状況」から脱し、安定した営業キャッシュ・フローが得られる状況にまで改善が進んでおります。

現金及び現金同等物は前期と比較いたしまして減少しておりますが、これは銀行からの借入金の返済を大幅に前倒しで完済したことが主要因であり、負債の圧縮が進んだことにより、継続していたキャッシュ・ポジションの減少に、終止符が打たれたものと認識しております。

## ■連結貸借対照表

【単位:百万円】	H21.3末	H22.3末	増減率
<b>流動資産</b>	<b>5,655</b>	<b>3,001</b>	<b>△46.9%</b>
現金及び預金	3,519	2,121	△39.7%
受取手形/売掛金	1,163	686	△41.0%
<b>固定資産</b>	<b>6,624</b>	<b>1,672</b>	<b>△74.8%</b>
有形固定資産	987	198	△79.9%
無形固定資産	792	542	△31.5%
投資その他の資産	4,844	931	△80.8%
<b>総資産</b>	<b>12,280</b>	<b>4,674</b>	<b>△61.9%</b>
<b>流動負債</b>	<b>7,468</b>	<b>1,999</b>	<b>△73.2%</b>
短期借入金等	3,720	500	△86.6%
未払金	1,358	697	△48.6%
移転損失引当金	505	0	—
<b>固定負債</b>	<b>1,217</b>	<b>18</b>	<b>△98.5%</b>
預り保証金	724	3	△99.4%
<b>負債</b>	<b>8,686</b>	<b>2,013</b>	<b>△76.8%</b>
<b>純資産</b>	<b>3,594</b>	<b>2,660</b>	<b>△26.0%</b>

### ■流動資産

・現金及び預金の減少……………△1,397百万円  
 ・連結子会社売却に伴う受取手形及び売掛金の減少……………△477百万円

### ■固定資産

・開業支援サービス縮小に伴う賃貸店舗資産の減少……………△1,316百万円  
 ・貸与資産の減少……………△724百万円  
 ・債権回収等に伴う破産更生債権等の減少……………△1,804百万円  
 ・本社移転等に伴う敷金及び保証金の減少……………△676百万円

### ■流動負債

・短期借入金等の減少……………△3,220百万円  
 ・連結子会社の売却等による未払金の減少……………△661百万円  
 ・本社等の移転による移転損失引当金の減少……………△505百万円

### ■固定負債

・開業支援サービス縮小に伴う預り保証金の減少……………△720百万円

## ■連結キャッシュ・フロー計算書

【単位:百万円】	H21.3末	H22.3末
営業活動におけるキャッシュ・フロー	△13	229
投資活動におけるキャッシュ・フロー	△3,626	1,602
財務活動におけるキャッシュ・フロー	2,493	△3,179
現金及び現金同等物の増加(△減少)額	△1,109	△1,349
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>3,411</b>	<b>2,062</b>

### ■営業活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

・破産更生債権等の減少……………1,804百万円  
 ・賃貸店舗資産の売却による収入…719百万円  
 ・税金等調整前当期純損失の減少……………△870百万円  
 ・貸倒引当金の減少……………△926百万円  
 ・未払金の減少……………△642百万円

### ■財務活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

・短期借入金による収入……………850百万円  
 ・短期借入金の返済による支出…△4,070百万円

### ■投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳

・投資有価証券の売却による収入……………769百万円  
 ・敷金及び保証金の返還による収入…693百万円  
 ・子会社株式売却による収入……………419百万円  
 ・無形固定資産の取得による支出…△335百万円



## 来期に向けて

### ■平成23年3月期 業績予想について

既に進行中の平成23年3月期の業績予想といたしましては、前期に対しまして減収増益の見込みでございます。

売上高につきましては、既述のとおりITパッケージと関連性の低いサービスの撤退及びグループ子会社の売却に伴う売上高の減少と、昨今の景況感を鑑み既存サービスの受注量を保守的に算定した結果、前期に対しまして減少する見込みでございます。

利益面につきましては、前期において取組んだ販売管理費の抑制効果が年間を通じて寄与してくること、及び今期におきましても引き続きローコスト・オペレーションの徹底を強化してまいること、売上高減少分を吸収し、営業利益50百万円と黒字転換する見込みでございます。なお、当期純利益におきましては0百万円の見込みであり、5期ぶりに当期利益ベースでの損失を回避できる見込みでございます。

業績予想を達成する為に、今期の経営方針といたしまして「利益体質への転換に向けた事業構造の改革」を事業テーマとして掲げ、BPR(Business Process Reengineering)の推進による生産性の追及、ストック型ビジネスへの転換に向けた次世代コア商材の開発、及びローコスト・オペレーションの継続実施に取り組んでいく所存でございます。

経営面のテーマとしましては「内部管理体制の更なる強化」をテーマに掲げ、コーポレート・ガバナンスの強化、再発防止策の継続実施、及び開示書類に関する法令遵守体制の整備に更に取り組んでいく所存でございます。

私の社長としての最大の責務は、現在の厳しい経営環境を乗り越え、構造改革を推進し、できるだけ早く会社を立て直すことにあると考えております。まずは業績の改善に向けて全社一丸となり、全力を尽くして取り組んでまいりますので、なお一層のご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

【単位:百万円】	H22.3通期 (実績)	H23.3通期 (予想)	対前期増減率
売上高	9,840	7,646	△22.3%
売上原価	2,872	1,610	△43.9%
売上総利益	6,968	6,035	△13.4%
販管費	7,411	5,984	△19.3%
営業利益(△損失)	△443	50	—
経常利益(△損失)	△410	65	—
当期純利益(△純損失)	△954	0	—

※上記の業績予想につきましては、本資料発表時点でする入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績は予想数値と異なる場合がございます。

代表取締役社長  
高梨 宏史





### ■業績及び経営指標の推移

営業利益ベースでは平成18年3月期、グループ規模及び年商規模ベースでは平成19年3月期をピークといたしまして、その後長い低迷期にはっております。

しかしながら、終了いたしました平成22年3月期におきましては、連結営業損失が縮小するとともに、下半期では連結営業利益が黒字転換するところまで回復いたしました。

進行期である平成23年3月期におきましては、非常に厳しい景況感ではあるものの、連結営業利益が通期ベースで黒字となる見通しでございます。

平成21年3月期があらゆる面のボトムであり、平成22年3月期におきましては、営業キャッシュ・フローが黒字転換し、現金及び現金同等物残高の減少にも歯止めがかかるとともに、有利子負債が大幅に減少し、流動比率が大幅に改善するなど財務面での大幅な改善を実行いたしました。

平成23年3月期におきましては、更なる業績改善と共に、財務の健全性をさらに推進してまいります。

また、当社第13回定時株主総会にてご承認頂きました第三者割当増資が実行されることで、有利子負債がゼロとなり、流動比率も200%を超える見通しでございます。

【単位:百万円】	H18.3 (実績)	H19.3 (実績)	H20.3 (実績)	H21.3 (実績)	H22.3 (実績)	H23.3 (予想)
売上高	20,329	22,974	17,957	18,420	9,840	7,646
営業利益(△損失)	4,267	941	△740	△897	△447	50
当期純利益(△純損失)	2,398	△815	△6,437	△9,547	△958	0

営業活動におけるキャッシュ・フロー	2,734	△3,208	△1,583	△13	229	223
現金及び現金同等物の期末残高	5,360	5,756	4,521	3,411	2,062	2,585

純資産	11,242	20,112	13,346	3,594	2,660	3,472
流動比率	101.9%	325.8%	207.8%	75.7%	150.4%	200.2%
有利子負債	5,249	287	1,723	3,720	500	0

グループ会社合計	10社	15社	16社	11社	2社	2社
従業員数	1,285人	1,636人	1,364人	1,074人	732人	675人

## 第13期 財務諸表

### ■連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目/期別	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	当連結会計年度 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	5,655	3,001
固定資産	6,624	1,672
有形固定資産	987	198
無形固定資産	792	542
投資その他の資産	4,844	931
資産合計	12,280	4,674
<b>負債の部</b>		
流動負債	7,468	1,999
固定負債	1,217	18
負債合計	8,686	2,017
<b>純資産の部</b>		
株主資本	3,615	2,656
資本金	7,744	7,744
資本剰余金	7,841	7,841
利益剰余金	△ 11,905	△ 12,863
自己株式	△ 65	△ 65
評価・換算差額等	△ 53	—
少数株主持分	32	—
純資産合計	3,594	2,656
負債純資産合計	12,280	4,674

### ■連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目/期別	前連結会計年 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	当連結会計年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
売上高	18,420	9,840
売上原価	6,597	2,872
売上総利益	11,822	6,968
販売費及び一般管理費	12,719	7,415
営業損失	△ 897	△ 447
営業外収益	310	115
営業外費用	155	82
経常損失	△ 741	△ 414
特別利益	184	727
特別損失	8,907	1,183
税金等調整前当期純利益	△ 9,464	△ 870
法人税等合計	76	88
少数株主利益(△)・損失	6,749	△ 108
当期純損失	△ 9,547	△ 958

### ■連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目/期別	前連結会計年 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	当連結会計年度 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 13	229
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,626	1,653
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,493	△ 3,179
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 1,146	△ 1,296
現金及び現金同等物の期首残高	4,521	3,411
連結範囲の変更による現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	36	△ 2
現金及び現金同等物の期末残高	3,411	2,112

## 会社概要・株式データ

### 概要 (2010年3月31日現在)

社名(商号)：株式会社SBR (SBR INC.)  
 設立：1997年6月11日  
 資本金：77億4,409万円  
 所在地：〒105-0011  
 東京都港区芝公園二丁目4番1号  
 03-6430-6622 (代表)

従業員：連結732名

主な事業内容：小企業向けITソリューション事業

- ・WEBサイトの企画、構築、運用及び  
 コンサルティング事業
- ・インターネット広告等の販売代理店事業

### 役員一覧 (2010年6月24日現在)

代表取締役社長	高梨宏史
取締役	仁分啓太
取締役	天笠竜哉
社外取締役	大谷淳志
社外取締役	福永清志
常勤監査役	藤巻隆志
監査役	村重嘉文
監査役	相川光生

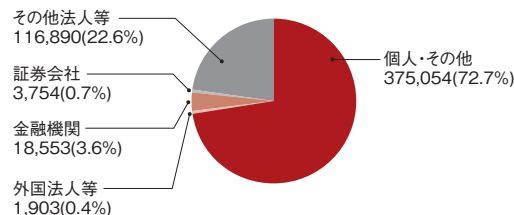
### 株式の状況 (2010年3月31日現在)

発行可能株式総数	1,752,000株
発行済総株式数	516,154株
株主の数	10,896名

### 大株主の状況

村山 拓蔵	85,037	16.48
ヤフー株式会社	76,147	14.75
株式会社光通信	27,305	5.29
個人株主	20,965	4.06
日本証券金融株式会社	17,990	3.49
齋藤 真織	8,988	1.74
株式会社サイネックス	5,000	0.97
個人株主	4,040	0.78
個人株主	3,652	0.71
個人株主	3,600	0.70

### 所有者別株式分布状況



## ■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要がある場合は、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-232-711 (フリーダイヤル)
お取扱い店		三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

お知らせ

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 公告の方法 電子公告

公告掲載URL <http://www.sbr-inc.co.jp/investor/stock/announce.html>

ただし事故その他やむを得ない事由により、電子公告に公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

当社のホームページでは、株主・投資家の皆様への適時・公正・公平な情報開示に努めています。どうぞご活用ください。

IRホームページURL

<https://www.sbr-inc.co.jp/investor/>



## 株式会社SBR

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号 ダヴィンチ芝パーク  
TEL:03-6430-6622

URL:<http://www.sbr-inc.co.jp>